中部大学日本伝統文化推進プロジェクト

NIHON BUNKA

―― 2021 年度活動報告書 ――

ごあいさつ

2019 年 4 月に始まった本プロジェクトは、3 年目を迎え、大きな変化と発展がありました。なかでも「日本伝統文化プロジェクト室」を、不言実行館 5 階に開設できました。和室と展示のスペースを備え、活動等を映写するプロジェクターも設置しています。今後の日本伝統文化推進活動の拠点としての活用が期待されております。

本プロジェクト室開設にともない、関連する文化財の収集が進みました。和室・床の間には、原田凍谷先生（本学准教授）の書軸を架けております。そのほか、謡曲本セット、草木染作品、茶道具セット、関連書籍等、寄贈品が増えました。加えて、2021 年度の統一テーマ「源氏物語」にちなんで、「源氏物語絵屏風」2 双 4 点（いずれも江戸時代の名品）を入手いたしました。この屏風は本学書院・洞雲亭において、披露させていただきました。

企画の活動は、コロナ禍の制約を受けながらも、ほぼ例年並みに進めることができました。なかでも、「伝統話芸の世界―落語と講談」には、中部大学春日丘中学校生の参加を得て、大いに好評でした。今後も、本活動を、併設校との連携に発展させることで学園の一体化を図るとともに、本学の顕著な特色ある文化と教育の活動として、積極的に発信していきます。

本活動は、学生・生徒たちに、日本伝統文化を親しく体験してもらい、グローバル時代に生きていくための豊かな教養形成に資することをめざしております。その意味で、日本伝統文化に主体的に親しむ学生たちとの連携が欠かせません。これまでも随時、学生たちの協力のもと、活動をしてきましたが、今後は、日本伝統文化愛好の学生グループとの連携をより一層強め、学生との共同企画などに向けて進めていくべく、目下、学生グループとの意見交換を重ねております。なお、コロナ禍で、地域市民への文化発信は思うに任せませんでしたが、次年度に向けて、可能な方法を検討しております。

今年度も多くの方のご協力を得ましたが、なかでも本学管財課のご配慮には、感謝いたします。3 年目のこの飛躍を、次年度には確かなものとして軌道に乗せてまいります。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

2022 年 3 月
中部大学日本伝統文化推進プロジェクト長
フェロー　辻本雅史

目　次

1.　活動記録

1.1 能楽鑑賞会　『葵上』
1.2 日本舞踊講演会「自分の中に見つける日本の伝統」
1.3 源氏物語講演会
「武家の時代の源氏物語―古典と政治権力―」
1.4 平安装束ワークショップ
「十二単・狩衣・直衣を体験しよう」
1.5 原田凍谷先生　書道展
1.6 講談と落語の世界
1.7 日本伝統文化プロジェクト室の開室
1.8 日本伝統文化講座
（「日本の歴史と文化、能楽・日舞お稽古）

2.　会議記録

3.　プロジェクトメンバー

2021 年度日本伝統文化推進プロジェクト実施一覧

■能楽鑑賞会　「葵上」

日　時：2021 年 5 月 26 日（水）15 時 20 分～ 16 時 50 分
場　所：不言実行館アクティブホール
講演者：シテ方観世流能楽師　久田勘鷗氏、久田三津子氏、他
参加者：無観客開催　※HP にて動画公開

■日本舞踊講演会　「自分の中に見つける日本の伝統」

日　時：2021 年 7 月 7 日（水）15 時 20 分～ 16 時 50 分
場　所：三浦幸平メモリアルホール
講演者：西川流家元　西川千雅氏
参加者：178 名（学生 171 名、教職員 7 名）　※HP にて動画公開

■源氏物語講演会　「武家の時代の源氏物語－古典と政治権力－」

日　時：2021 年 9 月 29 日（水）15 時 20 分～ 16 時 50 分
場　所：30 号館 1 階　3011 講義室
講演者：名古屋大学名誉教授　高橋亨氏
参加者：無観客開催　※HP にて動画公開

■平安装束ワークショップ（共催：日本語日本文化学科）

日　時：2021 年 10 月 6 日（水）15 時 20 分～ 16 時 50 分
場　所：不言実行館アクティブホール
講演者：一般財団法人　民族衣装普及協会
参加者：62 名（学生 52 名、教職員 10 名）　※HP にて動画公開

■原田凍谷先生　書道展

日　時：2021 年 11 月 3 日（火）～ 11 月 19 日（金）
場　所：不言実行館 1 階

■講談・落語鑑賞会「講談と落語の世界」

日　時：2021 年 11 月 10 日（水）15 時 20 分～ 16 時 50 分
場　所：三浦幸平メモリアルホール
講演者：講談師　旭堂鱗林氏、　落語家　登龍亭獅篭氏
参加者：189 名（学生 67 名、教職員 19 名、春日丘生徒 103 名）

■日本伝統文化講座（古典文学研究会　能楽・日本舞踊・茶道）

日　時：春学期　金曜日 4 コマ目 15 時 20 分～ 16 時 50 分
　　秋学期　金曜日 4 コマ目 15 時 20 分～ 16 時 50 分
場　所：2811 講義室（能楽・茶道）、ダンススタジオ（日舞）
講演者：久田勘鷗氏（能楽 3 回）、西川まさこ氏（日舞 4 回）、谷口剛久氏（茶道 2 回）

能楽鑑賞会「葵上」

講演　久田勘鷗 師（シテ方観世流 重要無形文化財「保持者」）
舞囃子「葵上」久田勘鷗 師、久田三津子師他

2021 年 5 月 26 日 (水)15:20～16:50、不言実行館アクティブホールにおいて、能楽鑑賞会を開催した。コロナ禍のため、観覧は学内の関係者のみで行われ、学生へは後日ビデオ配信で提供された。演目は能「葵上」であり、2021 年度の日本伝統文化推進プロジェクトのテーマ『源氏物語』に沿った演目であった。演者は本学客員教授でもある久田勘鷗師、久田三津子師 (ともに重要無形文化財総合指定保持者)、他の方であった。

ストーリーは、光源氏の正妻、左大臣家の息女の葵上は、物の怪にとりつかれ重態で、回復させようと様々な方法を試みるが、うまくいかず、梓弓の音で霊を呼ぶ「梓の法」の名手、照日の巫女を招き、物の怪の正体を明らかにすることになった。巫女の法に掛けられて姿を表したのは､元皇太子妃で源氏の愛人の六条御息所の怨霊である。御息所は、気高く教養深い高貴な女性であるが、近頃は源氏の足も遠のき、密かに源氏の姿を見ようと訪れた加茂の祭りでも車争いで正妻の葵上に敗れ、やり場のない辛さが募っていると訴える。そして、葵上の姿を見ると、嫉妬に駆られ、葵上の魂を抜き取ろうとする。家臣たちは、御息所の激しさにおののき、偉大な法力を持つ修験者横川の小聖を急ぎ呼んだ。小聖が祈祷を始めると､御息所の心に巣くっている嫉妬心が鬼女となって表われた。恨みの塊となった御息所は、葵上のみならず、祈祷をしている小聖にも襲いかかる。激しい戦いの末､御息所の怨霊は折り伏せられ､心安らかに成仏するというもの。 舞台では、久田勘鷗師による「葵上」の説明の後、久田三津子師に鬼女の能衣装をつける過程が示された。その後、鬼女となった六条御息所の怨霊が横川の小聖と争う迫力ある場面が囃子方 (笛・鼓・大鼓) 入りで実演された。能の醍醐味が満喫出来た。

自分の中に見つける日本の伝統

講話　西川千雅師（日本舞踊西川流四世家元）
実演　西川千雅師、西川まさ子師、西川豊代乃師

2021 年 7 月 7 日（水）、三浦幸平メモリアルホールにて、日本舞踊家西川千雅氏と、西川まさ子氏による講演会を開催した。参加者は学生 171 名、教職員 7 名、計 178 名であった。

本年は、「自分の中に見つける日本の伝統」と題する講演会を開催していただいた。「日本の歴史と文化」の中で授業を受けている全学の学生や、日本語日本文化学科の学生を中心に、学生達は西川千雅先生の話術と西川まさ子先生、西川豊代乃先生による実演に引き込まれていた。ディズニー作品などをモチーフにした日本舞踊などもあり、学生達は今回の講演会で日本舞踊に関する認識を改めたようである。更に、西川まさ子氏による本学での稽古を希望する学生もおり、有意義な講演会であった。

(講演後の両西川先生・スタッフ・学生スタッフ)

中部大学日本伝統文化推進プロジェクト

NIHON BUNKA

日本文化を学ぼう！

日本舞踊講演会

自分の中に見つける日本の伝統

2021年 7月 7日（水）

15:20～16:50（開場 15:00）

三浦幸平メモリアルホール

＜ 完全予約制　要申込 ＞

※状況により無観客で開催する場合があります

プロフィール

NISHIKAWA KAZUMASA

西川 千雅 師

中部大学　客員教授
名古屋外国語大学　客員教授
愛知淑徳大学　非常勤講師
愛知芸術文化協会 理事
名古屋日本舞踊協会 幹事

中部大学

申込み･お問合せ先　**日本伝統文化推進プロジェクト事務局**（人文学部事務室内）
エントリーフォーム　**https://www.chubu.ac.jp/humanities/01/form.cgi**
愛知県春日井市松本町1200　TEL：0568-51-4144　E-mail：jinbun@office.chubu.ac.jp

源氏物語講演会
「武家の時代の源氏物語 ―古典と政治権力―」

講師　高橋 亨氏（名古屋大学名誉教授）

2021 年 9 月 29 日（水）、3011 講義室において、高橋亨氏による「武家の時代の源氏物語―古典と政治権力―」と題する講演が行われた。本プロジェクトの本年度の統一テーマに沿った講演である。コロナウイルス感染禍のため、無観客開催となったが、一部のスタッフ学生や教員が聴講し、後日動画が公開された。

講師の高橋氏は、王朝物語と文学理論、物語絵研究を専門とされ、『源氏物語』研究の大家として知られる。講演は、高橋氏所蔵コレクションの源氏絵や源氏図屏風の詳細な解説から『源氏物語』の内容まで多岐にわたった。

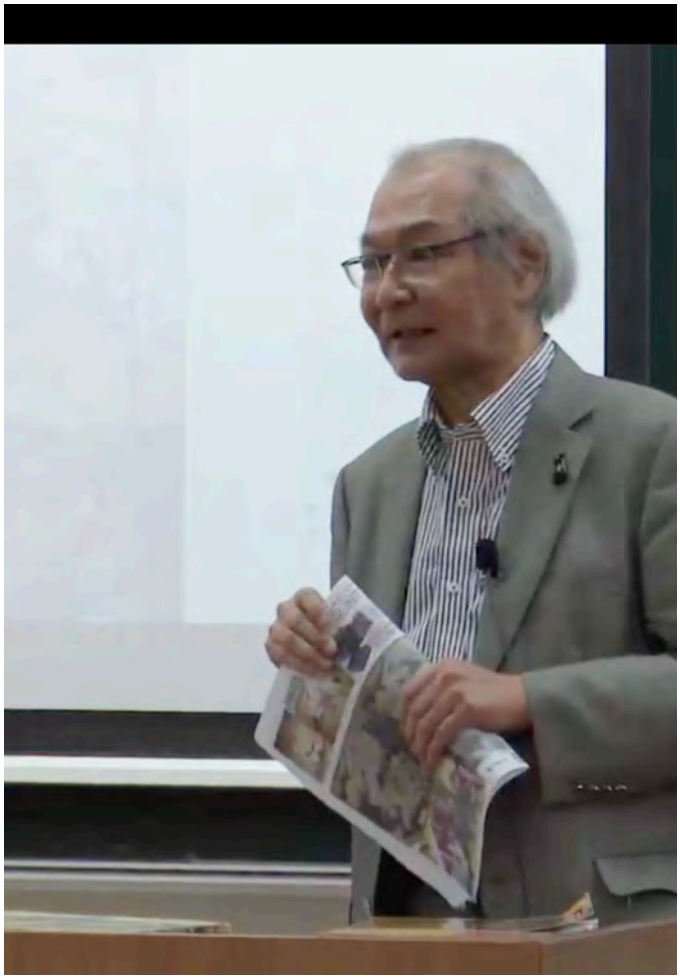
「平安朝」の貴族社会で成立した『源氏物語』はやがて武家の古典ともなり、絵画化された多くの源氏絵が現存している。源氏絵は江戸時代の初めの作品が圧倒的に多い。徳川家康が征夷大将軍となるために「源」の姓を名乗ったことがその一因とされている。『源氏物語』や源氏絵は政治権力に必要とされ、武家権力者にとってのいわば聖典となった。また、絵巻や画帖として楽しまれた源氏絵は、武家に嫁す公家（貴族）の「嫁入本」、あるいは、城や豪華な邸宅の障子絵や屏風絵としても描かれた。有名なものでは、三代将軍家光の第一子、千代姫の初音の調度類（国宝）などがある（徳川美術館蔵）。講演会で紹介された六曲屏風の解説では、帚木巻、空蝉巻、夕顔巻などが取り上げられ、絵を通して、物語内容を想像しながら拝聴することができた。

一扇に様々な場面が描かれており、それぞれの場面は時系列が異なるが、木立や険しい山、雲などが場面を区切る役割を果たしている。取り上げられた人物では末摘花に興味を持った学生が多かったようである。目鼻立ちがしっかりしていて身長が高く、現代ではモデルとして活躍できそうなスタイルである。当時は、いわゆる「引目鉤鼻」が美人とされていたが、『源氏物語』の登場人物が現代にいたらと想像したようである。

江戸時代には源氏絵にカテゴライズされる絵が多く描かれたが、特殊な源氏絵や屏風の解説もあった。岩佐又兵衛派が若菜下巻の絵で、天皇になれなかった光源氏を、天皇や皇后が座る繧繝縁（うんげんべり）の畳に座らせ、金屏風の前に女三の宮を配置させている。時折、作家が間違っていることもあるが、それを発見する作業も源氏絵を見る楽しみである。

『源氏物語』は浮世絵の題材ともなった。今回は、柏木と女三の宮のパロディ化された作品が取り上げられたが、女三の宮が遊女に仕立てられ、男女の権力関係の逆転が描かれていた。さらに三島由紀夫と『源氏物語』にまで話が及んだ。『源氏物語』が作家の想像力や創作意欲を掻き立てる作品であったことがよく分かる。

学生たちは、講演前には本学 19 号館の建築資料製作室で寝殿造りや調度品の模型を閲覧し、講演後には学外研修として徳川美術館で国宝源氏物語絵巻を鑑賞する機会に恵まれ、今年度は『源氏物語』の世界に多く触れることができた。



中部大学日本伝統文化推進プロジェクト

NIHON BUNKA

日本文化を学ぼう！

―― 源氏物語講演会 ――

武家の時代の源氏物語絵

―古典と政治権力―

『源氏物語』は平安朝の貴族社会で成立したが、江戸時代に至る武家の古典でもあり、絵画化された多くの源氏絵も現存している。その理由は、例えば徳川家康が、征夷大将軍となるために「源」の姓を名乗ったからである。恋物語である「源氏物語」は、武家の権力者にとっての聖典ともなった。
また、絵巻や画帖として楽しまれた源氏絵は、武家と公家（貴族）との結婚記念の「嫁入本」、あるいは、お城や豪華な邸宅の障子絵や屏風絵としても描かれた。十七世紀を中心とした様々の源氏絵は、多様な階層の男女に向けて多く現存し、私の個人的なコレクションとしてもあるので、お宝自慢を交えつつお話する。

2021年9月29日（水）
15:20～16:50（開場 15:00）
30号館1階3011講義室

＜完全予約制　要申込＞
※状況により無観客で開催する場合があります

プロフィール
TAKAHASHI　TORU
髙橋　亨氏

1947年、横浜市生まれ。東京大学大学院博士課程後期中途退学、博士（文学）。名古屋大学教養部、同人間情報学研究科、同文学研究科を経て、椙山女学園大学教授を退職。現在、名古屋大学名誉教授、Gen庵主人。専門は王朝物語と文学理論、物語絵。特に『源氏物語』と日本文化。
主な著書に『源氏物語の対位法』（東京大学出版会）、『物語文芸の表現史』（名古屋大学出版会）、『色このみの文学と王権』（新典社）、『源氏物語と絵の遠近法』（べりかん社）、『源氏物語の詩学』（東京大学出版会）。編共著『武家の文物と源氏物語絵』（梅林書房）などがある。

中部大学
申込み・お問合せ先 **日本伝統文化推進プロジェクト事務局**（人文学部事務室内）
エントリーフォーム　**https://www.chubu.ac.jp/humanities/02/form.cgi**
愛知県春日井市松本町1200　TEL:0568-51-4144　E-mail:jinbun@office.chubu.ac.jp

平安装束ワークショップ
「十二単・狩衣・直衣を体験しよう」

2021 年 10 月 6 日（水）、不言実行館アクティブホールにおいて、平安装束ワークショップが開催され、日本語日本文化学科の学生（3、4 年生）や教職員 60 数名が参加した。コロナウイルス感染拡大の影響で開催が危ぶまれたが、人数を制限し感染対策を行った上で実施され、後日動画が公開された。

ワークショップは 2013 年と 2015 年の斎宮歴史博物館、いつきのみや歴史体験館のスタッフによる十二単の解説と着付けのワークショップ以来、6 年ぶりの開催であった。今回は、一般財団法人 民族衣裳文化普及協会から 5 人の講師をお招きし、十二単・狩衣・直衣の着装実演と解説をお願いした。

日本語日本文化学科の 3 年生の 3 人の女子学生がそれぞれ「狩衣」「直衣」「十二単」のモデルに選出され、着装の度に様々な解説が行われた。モデルである御方様（おかたさま）に対して 2 人の衣紋者（えもんじゃ）が付き、前後で着付けをしていく。衣紋者にも細かい作法があり、所作も美しい。

当時の女房装束の着付けは紐の数も少なくゆったりとしたもので、紐を 1 本解けば火急の際などはすぐに脱ぐことができたが、現代では数本の紐を使って着付けが行われる。雲鶴や亀甲の文様、括り緒（くくりお）、露、襲（かさね）の色目の解説など、学生には聞き慣れない専門用語も出てきて、知的好奇心が刺激された。

十二単は俗称であり、文献では『平家物語』が初出とのことである。『源氏物語』の光源氏や末摘花など登場人物のユーモアを交えた解説もあった。現在の十二単は 16 キロほどあるそうだが、当時の絹糸は細くて軽かったようでそれほど重くもなく、十二は多いという意で十二枚重ねるということではない。

今回は 10 月ということで、十二単は季節に合わせて紅葉襲（もみじがさね）の装束を選んでいただき、烏帽子（えぼし）や冠、かつら、浅沓、蝙蝠（かわほり）、檜扇（ひおうぎ）、畳紙（たとうがみ）などの小物までご用意いただいた。

学生の反応もよく、写真や映像でしか見たことがなかった色鮮やかな平安装束を直接、目にすることができ、貴重な経験になったようである。しばしの間、平安時代に思いを馳せることができたのではないだろうか。

「講談と落語の世界」

第一部　講談の世界
第二部　落語の世界

中部大学日本伝統文化推進プロジェクト

NIHON BUNKA

日本文化を学ぼう！

――日本の伝統話芸――

講談と落語の世界

2021年
11月10日(水)
15:20～16:50（開場15:00）
三浦幸平メモリアルホール

＜完全予約制　要申込＞
※状況により変更する場合があります

第一部
講談の世界

講談

きょくどう　りんりん
旭堂鱗林

演目：創作講談　棋士伝
「藤井聡太物語」

〈プロフィール〉幼稚園教諭とブライダルコーディネイトを経て、1999年に名古屋を中心に活躍するタレントとしてデビュー。2006年、水谷ミミ(風鱗)から上方講談師旭堂南鱗道場の紹介を受け、3年間講談道場に通い、南鱗の「鱗」の字をもらって女流講談師古池鱗林となる。2016年に上方講談協会に所属し、旭堂鱗林に改名。
名古屋観光文化交流特命大使、愛西市観光大使、瀬戸市広報大使などを務める。現在、RADIO SANQ(尾張東部放送)の「サンキューイブニング」などに出演。

〈プロフィール〉1994年6月、立川談志に入門、立川志加吾を名乗る。2003年8月、名古屋唯一の落語家、雷門小福門下に移籍して、雷門獅篭となり、2020年に登龍亭獅篭と改名。世界でただ1 人のプロの落語家＋漫画家。ぶんか社「本当にあった笑える話」誌上にて「雷とマンダラ」連載中。著書に「名古屋式。」(マガジンハウス)などがある。現在、RADIO SANQ(尾張東部放送)でパーソナリティー、名古屋文化短期大学、毎日文化センターで講師を務める。

第二部
落語の世界

落語

とうりゅうてい　しかご
登龍亭獅篭

演目：
当日のお楽しみ

旭堂鱗林さんは、上方講談協会に所属する講談師で、名古屋の大須演芸場などで活躍されている。「藤井聡太物語」は 2019 年の折にもお願いして好評だった演目である。今年は最年少での五冠達成という事で賑わっている事もあり、新たにバージョンアップした同じ演目でやっていただく事になった。会場は中学生が入っている事もあり和やかな雰囲気に包まれていた。

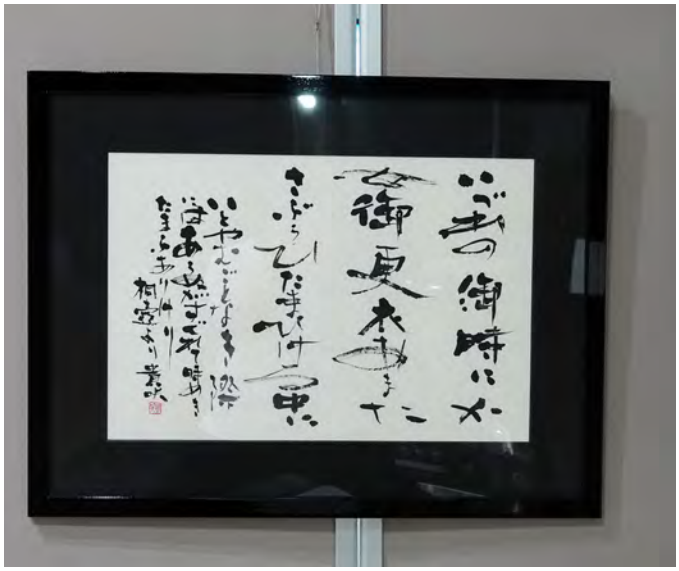
登龍亭獅篭さんも２度目の登壇である。題名は当日のお楽しみとはあるものの、中学生を壇上に上がってもらって蕎麦のすすり方の指導をするなど微笑ましい場面も見られた。

【中学生感想】
(A 君) 講談について。あれだけ飽きずに、面白い話を流暢に話すことができるとは。世界観に引き込まれました。衝撃です。内容もとても笑える。藤井聡太物語は内容自体興味深いですが、話し手が素晴らしいとここまで面白くなるとはと驚きました。落語について。まず、人柄がよく、安心して見ることができました。何かわかりませんがすごい優しいオーラが出ている人だと。そして、話は大爆笑でした。一瞬、落語の道も面白そうだと考えたくらいです。一番印象に残りました。それにしても、あの麺をすする音はできない・・

【中学生感想】
(B 君) 講談と落語を初めて目の前で見ました。あまり興味なかったのですが、思ったより面白く興味を持つことができました。講談は、藤井聡太さんについて改めて素晴らしい人だなと思いました。話を聞いて、将棋は自分が思っている以上に奥が深くて面白いかもと思いました。将棋は一度もやったことがないので、ルールなどわからず、テレビでやっていてもすぐに違う番組にしていたので、一回見てみようと思いました。「なぞかけ」はお題に対してすぐに答えられるのがすごいなと思いました。最初の「紅葉と解いて福神漬けと解く」は、食べ物と景色 (自然) で全然物が違っていて答えが出るのか！？と思いましたが、答えが出た時「なるほどぉ」とすごくしっくりきて面白いなと思いました。落語：テレビで何回か見たことはありましたが、あまり笑えなかったのですが、すごく楽しくてやはり生で見るのと収録してみるのは違うなと思いました。話す時の表現力に驚かされました。物も何もない状態で、1 人で何役もやっているのに内容がすーっと入ってきて、楽しく見せていたただきました。

原田凍谷先生　書道展

本年度は、原田凍谷先生の書道展を 2021 年 11 月 3 日（火）から 11 月 19 日（金）までの期間、不言実行館 1 階で展示された。本年度のテーマに沿って『源氏物語』の中の言葉を書いていただいた。『源氏物語』五十四帖の中で、任意に選ばれた言葉が展示され、それに合わせて、下には本文と源氏絵が付された。



日本伝統文化プロジェクト室の開室

待望の日本伝統文化プロジェクト室ができました。

場所は不言実行館の５階です。広くはありませんが、畳と襖、障子を備えた和室部分と展示スペースとに分かれております。それぞれにプロジェクターを設置し、部屋の外からも映像が見られる工夫もなされております。和室・床の間には、原田凍谷先生の「考古」の書軸をかけ、さらに先生揮毫の室名が正面を飾ることになっています。伝統文化に関わる文化財も集まりつつあり、その一部は展示に供しております。

本室の開室式を、１０月２２日（学生向け）と１１月５日（理事長、学長ほか大学幹部向け）に行いました。洞雲亭やオハイオ大学風景の映像のもと、草木染などの文化財も展示。理事長のごあいさつの後、辻本プロジェクト長から本活動の意義や今後の部屋の利用等についての説明がありました。

本室は、プロジェクト活動の拠点ではありますが、それ以上に、学生や教職員に積極的に活用していただきたいと願っております。

日本伝統文化講座

日本舞踊お稽古

中部大学ダンススタジオにおいて、秋学期に、西川流家元代理西川まさ子先生、西川豊代乃先生の御指導により、日本舞踊のお稽古が行われた。最初は、正しいお辞儀の仕方から始まり、秋学期の終わりの方には、一曲を通して踊る事が出来るようになった。

能楽お稽古

中部大学ダンススタジオ及び洞雲亭において、春学期、秋学期を通して久田勘鷗先生により、能楽のお稽古が行われた。舞と謡の実践的講義が行われた。

着付け講座

学生達の要望を受け、「きものサロン東京堂」の協力も得て、２月９日（水）に、着付け講座を開催した。好評につき、次年度以降の継続が期待される。

VYOND 講習会

能楽など伝統文化のコンテンツをアニメーション化をする為には、VYOND というソフトに習熟する必要がある。そこで本年度使いこなせるようになった学生により１月 21 日（金）に､後輩達に向けてリモートを交えてのハイブリッド形式で講習会が開催された。

日本伝統文化講座の授業を受けて

【応用生物２年女子】

春学期間、日本の歴史と文化の授業では日本舞踊、書道、能楽、茶道を普段から日常的に行っている方々に話を聞いた。すべて日本の昔からの文化であり、似てはいないのだがどこか日本らしさを感じることができ、どの文化もいいなと感じた。

日本舞踊の授業では、所作や、昔の日本人についてよく知ることができた。特に歩き方が腰を落として、手足同じ法を出すという歩き方にはとても驚いた。また、一曲の中でも様々な表現があり、想像よりも緩急があってみていて飽きないものだと感じた。日本舞踊は所作が美しく、日本の四季を表すのにとても向いているなと感じた。

書道の授業では般若心境を写すということを行った。時間はかかったが、一文字に集中し、丁寧に書き、出来上がった時は達成感を得ることができた。また、時間を忘れることができ、精神を落ち付かせるのにとてもいいなと感じた。

能楽の授業では能楽の歴史、ルールなど細かいところまでしることができた。能楽鑑賞会では一部分ではあるが楽器があり、演者がそろっているものを見ることができた。百聞は一見に如かずというが、やはり知識だけではなく、実際に見て感じることがとても大事だと思った。

茶道の授業では実際に器を見たり、茶会の様子などを知ることができた。日本史などで習った千利休についても知ることができ面白かった。茶道の授業を受けるまでもっと堅苦しいものだと思っていたのだがルールさえ知っていれば楽しむことができそうだなと感じた。茶道の授業のなかで特に印象に残っているのが器の話で、器を出すときは美しい部分を見せるとあったが、美しいと思う基準は出す人によって違うので同じ器でも扱う人が違えば変わるというのが面白いなと思った。

全ての講義を聴きそれぞれに昔の日本と通じるところがあり日本の文化とはいいものだと再認識することができた。知識だけではなく実際にみて自分で感じることによりもっと日本文化への見聞を広めることができると思った。だから、実際に能楽を見に行ったり、お茶をしにいってみたいと思った。今回聞いた講義の知識を無駄にせず、今の時代のものとつながっているということを忘れないようにしようと思った。

【コミニケーション２年女子】

茶道、能楽、日本舞踊、どれも古くから親しまれ継承されてきた文化だが、時が経つにつれ人々の興味が薄れつつある。そんな中、私は歴史や音楽の授業でこれらの文化に興味を持った。それぞれを職として身につけている人達の話など、そう簡単に聞けるものではないため、自分の知見を深めることを目的とし、この講義を受講するに至った。以下、文化継承の観点から述べる。

初めに茶道の講義に関して述べる。受講前はお茶の淹れ方の種類など気に留めたことも無かったが、講義を通して、加熱して酵素を殺した葉を粉にして湯と混ぜる「碾茶法」、様々に加工した葉に湯を加え、エキスを飲む「淹茶法」が存在する事を学んだ。

近年は抹茶味の飲み物や食べ物が人気を集めており、再び人々が抹茶に興味を持ち始めている。しかし、利便性を向上させるため、主に粉末スティックの抹茶風飲料が家庭で好まれている。これでは抹茶の文化のみ先進し、元祖の淹茶法を含む茶道の文化は変わらず薄れていってしまうのではないかと思う。

これは書道でも似たことが言える。私達は義務教育の過程で書道を習うが、義務教育を終えた後も書道を続けているのは、かなりの少人数だろう。実際、私が小学校から帰宅する道中に３つほど点在していた書道教室も、大学進学を機に地元を離れる頃には全て倒産していた。近年外国人からの人気を集めている書道だが、生徒数が増えなければ経営として成り立たず倒産が相次ぐ。また、スマートフォンの普及により現在は便利なタッチ入力が主流であるため、書くという動作に神経の集中を伴う本筋の書道は、減少の一途を辿るのではないか。非常に憂うる事態である。次に能楽に関して述べる。

能楽は、茶道や書道と比べて知名度は劣るが、自分が技術を身につけるのではなく鑑賞するものであるため、どの年齢層からも入りやすく敷居が低い。また、近年は歌舞伎役者と共に能楽師のテレビ出演も増え、さらに敷居が低くなりつつある。実際私も受講を終え、日本らしさを演出するためだと思っていた背景の松の絵は、実は松（神様）に向かって表現、上演、奉納していくという事が元になっており、前にあるはずの松が後ろに映っている事で、鏡板と呼ばれているなどの詳細を学び、茶道や書道は学生の身分では手を出しにくいが、能楽鑑賞への興味は非常に高まった。受講前の私を含め、能楽と歌舞伎の違いが曖昧な人々にとっては、片方に興味を持てば必然的に他方にも焦点が合うため、良くも悪くも歌舞伎と共に親しまれていくのではないかと思う。

最後に日本舞踊に関して述べる。日本舞踊はこれまでの文化の中で最も馴染みが無いものである。能楽は漠然と形式を言葉に出来るが、それに対して日本舞踊は何を指すのか全く想像できなかった。しかし、実際に講義を通して詳細を学んだ結果、現代の文化と最も親和性の高い文化だと気付いた。型など形式が決まっている能楽とは違い、楽曲から使用する小道具まで自由の幅が利くため、アプローチや広告の仕方によっては現代の若者も忌避せず興味を持つのではないかと思う。今回のレポート執筆を通して、世が利便性を追求するが故、人々の興味が薄れつつある文化や、文化の内容ではなく役者の素顔を表に出し人気を保つ文化など、人類の技術の発展により打撃を受けるもの、それらを活かしてより人気を得るものが存在する事を知った。そこで、情報網こそ日本文化継承の鍵であるという結論に達した。文化継承のためには、茶道であれば流行りのコンテンツを模ったお菓子と抹茶を SNS に投稿する、日本舞踊であれば流行りの曲に合わせ、映像映えする小道具を使用した踊りを動画サイトに投稿するなど、柔軟に現代の流行りに寄り添う必要があるだろう。

源氏物語屏風

高橋亨先生の９月の講演会の後、本学では先生の所蔵であった源氏物語図屏風を入手した。今後、授業や社会人向けの講座などで活用されることが期待される。屏風は六曲二双のものが二点である。一点は江戸中期の作品で絵師不明のもの。もう一点は、江戸後期成立の作品で、土佐派最後の名手と言われた土佐光貞の手によるものである。

日本伝統文化講座

春学期、秋学期を通して、金曜日４コマ目 (15:20〜16:50) の時間に日本伝統文化講座が開催された。全学に開いて広報し、春学期は四十人前後の学生が参加した。２０２０年度からは、「日本の歴史と文化」という授業の中で、全学の学生に対して、この日本伝統文化講座が行われている。秋学期は授業などと重なったものの、20 人近い学生の参加のもとお稽古が行われた。

春学期　「日本の歴史と文化」

４月　９日	ガイダンス	井上徳之	2544 講義室
４月 16 日	茶道	谷口剛久	2544 講義室
４月 23 日	連句	岡本聡	2544 講義室
４月 30 日	茶道	谷口剛久	2544 講義室
５月　７日	日本舞踊	西川千雅	2544 講義室
５月 14 日	能楽	久田勘鷗	2544 講義室
５月 21 日	日本舞踊	西川千雅	2544 講義室
５月 28 日	能楽	久田勘鷗	リモート
６月　４日	伝統的教育	辻本雅史	リモート
６月 11 日	書道	原田凍谷	リモート
６月 18 日	日本舞踊	西川千雅	2544 講義室
６月 25 日	能楽	久田勘鷗	リモート
７月　２日	日本舞踊	西川千雅	2544 講義室
７月　９日	茶道	谷口剛久	2544 講義室

秋学期

10 月 15 日	能楽お稽古	久田勘鷗	ダンススタジオ
10 月 22 日	プロジェクト室開室		日本伝統文化プロジェクト室
10 月 29 日	能楽お稽古	久田勘鷗	ダンススタジオ
11 月　５日	プロジェクト室開室		日本伝統文化プロジェクト室
11 月 12 日	日本舞踊お稽古	西川まさ子他	ダンススタジオ
11 月 26 日	天文台見学会	井上徳之	天文台
12 月　３日	古典文学研究会	岡本聡	2521 講義室
12 月 10 日	日本舞踊お稽古	西川まさ子他	ダンススタジオ
１月 21 日	VYOND 講習会	伊藤ゆりあ	2521 講義室
２月　９日	着付け講習会	東京堂	洞雲亭

会議記録

第１回日本伝統文化推進プロジェクト会議
日　時：２０２１年4月9日（金）　１３時３０分～
場　所：大学会議室

第２回日本伝統文化推進プロジェクト会議
日　時：２０２１年5月１４日（金）１３時００分～
場　所：大学会議室

第３回日本伝統文化推進プロジェクト会議
日　時：２０２１年6月２５日（金）１３時００分～
場　所：大学会議室

第４回日本伝統文化推進プロジェクト会議
日　時：２０２１年7月２８日（水）１５時３０分～
場　所：大学会議室

第５回日本伝統文化推進プロジェクト会議
日　時：２０２１年9月１７日（金）１３時３０分～
場　所：大学会議室

第６回日本伝統文化推進プロジェクト会議
日　時：２０２１年１０月１５日（金）１３時００分～
場　所：大学会議室

第７回日本伝統文化推進プロジェクト会議
日　時：２０２１年１２月9日（木）１３時３０分～
場　所：大学会議室

第８回日本伝統文化推進プロジェクト会議
日　時：２０２２年1月２７日（木）１３時３０分～
場　所：大学会議室

第９回日本伝統文化推進プロジェクト会議
日　時：２０２２年2月２４日（木）１３時３０分～
場　所：大学会議室

第１０回日本伝統文化推進プロジェクト会議
日　時：２０２２年3月１０日（木）１３時３０分～
場　所：大学会議室

プロジェクトメンバー

フェロー（プロジェクト長）	辻本　雅史
学生部長　生命健康科学部	伊藤　守弘（教授）
工学部ロボット理工学科	高丸　尚教（教授）
人文学部日本語日本文化学科	永田　典子（教授）
〃	岡本　聡　（教授）
超伝導・持続可能ｴﾈﾙｷﾞｰ研究ｾﾝﾀｰ	井上　徳之（教授）
事務統括本部副本部長	垣立　昌寛
人文学部事務室事務長	永平　三喜
（プロジェクトの庶務）	人文部学部事務室

写真協力　日本語日本文化学科４年　　渡邊　俊介

日本伝統文化推進プロジェクト 2021 年度活動報告書
編集・発行　中部大学日本伝統文化推進プロジェクト
〒487-8501　愛知県春日井市松本町 1200 番地
中部大学人文学部事務室
Tel. 0568-51-4144